

羊蹄山を懐に抱く、 二面開放のリゾートハウス

日本屈指のスキーリゾート・ニセコ。パウダースノーの品質もさることながら、
周辺の豊かな自然環境、とりわけ羊蹄山の美しさに人々は魅了されます。
この邸宅は、蝦夷富士とも謳われるその勇姿を住空間へ招き入れるべく設計。
世界が目にするニセコの地に、新たなランドマークの誕生です。

● 北海道ニセコ町/P邸





庭先の大きな木と呼応するように、バルコニーの柱がずっと伸びる



大屋根を緩やかにカーブさせた、やさしい表情のたたずまい

ハイレベルな感性をもつ、 オーナー家族との出会い

ウィンターシーズンになると、にわかには気づくニセコ。最高の雪質と、北海道の空の玄関千歳からのアクセスの良さが評判を呼び、いまや世界中から注目されるスキーリゾートになりました。外国人ツーリストの増加にともない、町もみるみる成熟化。スキー場周辺には多くのコンドミニアムや別荘が建設され、それに呼応するかのようには海外からのセレブリティが、家族で休暇を過ごすためにエスコを訪れます。

この建物のオーナーであるオーストラリア人医師Pさんも、まさにそんなお一人。毎年のようにご家族みんなでスキーを楽しむうち、誰にも気兼ねなくゆつくり滞在できる

居場所がほしくなったのだといいます。そこで、ニセコでプロジェクトマネージメントの会社を経営するキース・ロジャーズさんに相談。キースさんは、異国のリゾート地でどんな建築が求められるかを熟知しており、これまでもHOPと外国人クライアントを結びつけてきた実績があります。

そして、PさんはHOPの手がけたタウンハウスへ案内されるや、天然石やムクノ木を使い、障子やつくばいといったジャパニーズエッセンスを取り入れた建物に「目惚れ。ほとんどその瞬間、まだ二度も会ったことのない日本の会社に別荘建設を委ねることに決めたのです。本物の素材だけがもつ偽りのない美しさ、どこかオリエントルなムードをまとうせた建築が、高い美意識をもつPさんを満足させたのは、いうまでもありません。



羊蹄山の絶景を室内へ



がっしりとした大黒柱と太い梁が安心感を与える、ガラスの巨大空間

対面カウンターにスツールを置いて、
バーコーナーのようなキッチンに



幸福と誇りをもたらす おだやかな「建ち姿」

キースさんを介してすぐにも契約したいとの報を受けたものの、HOP石出和博代表は先を急ぐことはしませんでした。二度もお顔を拝見せずにプロジェクトが進行するのは、Pさんにとっても先々不安が残るでしょう。できれば札幌の会社やモデルハウスもご覧いただき、深いコンセンサスを得たいとお願いして来日したPさんはじつくりモデルハウスを見学され、改めてHOPへの信頼を確信したのです。

フェイス・トゥ・フェイスでご家族のライフスタイルやお人柄を知ることができ、コミュニケーションもスムーズに。その後はおもにメールを駆使して、時差のあるオーストラリアとやり取り。デザインやプランに関しては、HOPの提案をわくわくしながら待ちたいというご期待に応え、「ニセコの風景になじむ建築、そして何より羊蹄山を取り込む

空間設計をめざしました。

敷地は南東に羊蹄山を望む、傾斜のある角地。スキー場行きのバス停がすぐそばにあり、人通りの多い立地です。地下RC、1・2階が木造という3階建ての設計に、石出代表はひとつの挑戦を試みました。南を軸に、東西2方向を開放したダイナミックなプラン。いわば、骨組みだけでガラスの二大空間を構築しようというものです。それは同時に、木造工法の限界へのチャレンジを意味していました。試行錯誤のうえ辿り着いたのは、木造軸組工法をベースに改良を加えて耐久性をより向上させたHOP工法と、木質ラミネーション工法の合体。HOPでも初となる新工法の採用で、強度と開放感の両立をクリアすることができました。オーストラリアで多忙な生活を送るPさんご家族に、光と眺望に癒されるパカンスを楽しんでいただきたい。そんな思いが、設計者を駆り立てずにはいらなかったのです。

また、建物の骨格が建ち上がり、いよいよ屋根根をかけたときのこと。ポリウレムのあ



3階の寝室に隣接する、開放的なバスルーム



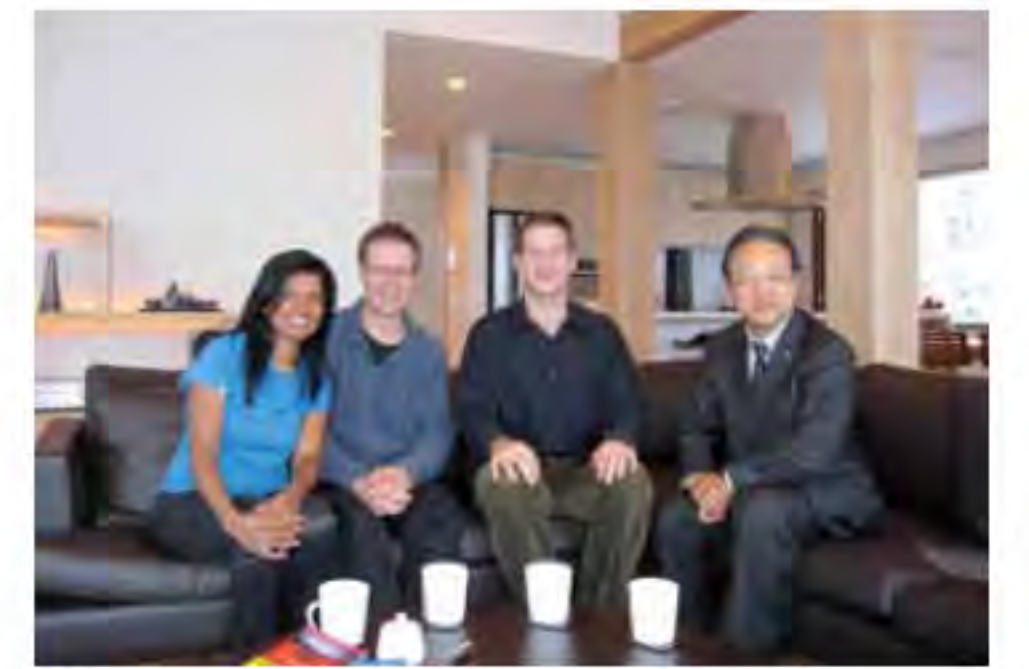
暖炉のあるリビングルーム

る建物にかかる大屋根は、どこか天を突き刺すようで違和感を覚えた石出代表。「見るからに威圧感があり、このままでは周囲から愛されれない。その場でやり直しを決断しました」。新しくかけられた屋根はゆるやかなウェーブを描く、やさしい造形。全体がおだやかな表情に変わりました。建築家にとって建物は分身のようなものだと、石出代表は言います。その「建ち姿」を見て、自問するのだと。後世に継ぎ、歴史に残る建造物をつくるからには、まず自身の心が納得しなければいけない。そのうえで、オーナーへ幸福と誇りをお届けするのだと。

こうして完成した建物は「雪舟」と名付

けられ、この冬のパカンスで訪れたご家族を感激させました。水回りを完備した4ベッドルーム、ホームパーティが楽しめるワイドなLDK、メディアルームに、露天式のジャグジーバス、そしてPさんの大のお気に入りになった和室など、ロングステイにはぴったりです。

ある朝、Pさんのお子さんがスキー場へ向うバスを待っているとき、同じ列に並ぶ人々が目の前の別荘を見て言ったそうです。「すばらしい建物だね。こういうデザインが増えると、ニセコはもっとよくなるね」と。思いがけず耳にした言葉が、小さなオーナーをどれほど誇らしい気分させたことでしょうか。Pさんから贈られた「アリガトウ」という日本語が、いつも増して胸に響くのです。



左からPさんご夫妻、キースさん、石出代表